

ぼくが 渡った信号は 青だったよ



交差点での歩行者・自転車事故を防ぐために



なぜ、青信号で幼い息子が犠牲に…
交差点の危険性を伝え続ける遺族の想い——



知っていますか？
[歩車分離式信号]



交差点は事故多発地帯



CGIによる解説



事故映像に学ぶ
交差点事故防止のポイント

¥70,000(税別) DVD [本編19分 | 字幕付 | 16:9 | カラー]



英語／English Subtitles、中国語／中文字幕 付き映像収録

●このDVDには字幕付き映像も収録されています。●チャプターを選択して再生できます。

ぼくが渡った信号は青だったよ

—交差点での歩行者・自転車事故を防ぐために—

制作意図

様々な車や人が行き交う【交差点】は事故の多発地帯です。なかでも重大な死亡事故につながりやすいのが、対歩行者や自転車との事故。歩行者・自転車利用者の交通事故死者数は、その半数以上が【交差点とその付近】で起きています。私たちドライバーが日常的に避けては通れない交差点こそ、より一層の注意と安全運転が求められています。

本作では、交差点の左折巻き込み事故で息子を奪われた遺族への取材を通し、事故の恐ろしさと命の大切さを訴えます。さらに、ドライブレコーダーが捉えた交差点での対歩行者・自転車事故を検証して、基本的な交通ルールとともに事故防止のポイントを解説していきます。

作品内容

◆オープニング——青信号で命を奪われた息子

【歩車分離式信号】とは、右左折をする車と横断する歩行者が交わらないように、車と歩行者の青信号のタイミングを分離した信号機のことである。1992年、長谷智喜さんは、当時11歳の息子・元喜君をダンプカーの左折巻き込み事故で亡くした。通学路の交差点で、青信号で横断歩道を渡っているときに起きた事故だった。長谷さんは、息子の死を無駄にしたいという想いから、【歩車分離式信号】の普及活動を始め、事故現場にも設置された。現在も交差点事故の危険性を訴え続けている。

◆交差点は事故多発地帯

歩行者・自転車の交通事故死者数を道路形状別の円グラフで紹介。その半数以上が「交差点とその付近」で起きている。私たちドライバーは、どうすれば交差点での歩行者・自転車事故を未然に防ぐことができるのか？

◆事故事例に学ぶ

ドライブレコーダーが捉えた実際の事故映像を検証し、基本的な交通ルールと事故防止ポイントを学ぶ。

①信号機のある交差点 | 歩行者との事故

交差点右折時、横断歩道付近での歩行者との事故事例

- 右折時はドライバーの安全不確認による事故が多く発生している
- 横断歩行者などを見落とさないポイント
- 道路交通法で定められた基本的な右折のルールを紹介
- 危険な「ショートカット右折」の例を事故映像とCGを交えて解説



②信号機のある交差点 | 自転車との事故

交差点左折時、自転車の巻き込み事故事例

- ドライバーの安全確認が不十分のため起きた事故
- 「巻き込み事故防止」のための左折のルール
- 横断歩行者や自転車などを見落とさない運転のポイント



③信号機のない交差点 | 出会い頭の事故

見通しの悪い交差点での、自転車との出会い頭事故

- 「一時停止」の表示がある交差点。
- ドライバーが一時停止を怠ったことで起きた事故。
- より確実な「多段階停止」の解説。
- こちらが優先であっても、「飛び出しがあるかもしれない」と注意する。



◆遺族が伝えたい思い ——エンディング

今もなお、交差点での悲惨な事故が後を絶たない。長谷さんは現在も【歩車分離式信号】の普及活動を続けている。「車の注意は、自分の安全を守ると同時に、他人を加害しないための注意。そのことを分かってハンドルを握ってもらいたい」と語る長谷さん。ハンドルを握ることは、人の命を握っているのと同じ。常に交通ルールを守り、思いやりの心をもって安全運転を心がけてもらいたい。

【取材協力】長谷智喜／長谷かつら 黒崎陽子 命と安全を守る 歩車分離信号普及全国連絡会 【協力】東京都個人タクシー交通共済協同組合 東京都個人タクシー協同組合 政和自動車株式会社
【製作代表】齊藤健太郎 【演出・脚本】北川希寛 【撮影・制作】市川任男 【演出補】遠山慎二 【制作進行】國友勇吾 【撮影応援】前田大和 板倉大樹 山野目光政
【出演】伊東尚輝、田中圭 【ナレーター】北斗誓一 【CG】伴善徳 【MA】尾崎達哉（プレーン） 【英語翻訳】阿部然大（AB'z パートナース合同会社）
【English Subtitles】Zendai Abe (AB'z Partners LLC) 【中国語翻訳】コン イーウェン【中文字幕】義仁愛

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101

お申し込み
お問合せ